

	課室名	学 術 文 化 財 課
件名	史跡の指定及び登録有形文化財（建造物）の登録に係る答申について	
内容	<p>○ 平成30年11月16日（金）に開催された国の文化審議会（会長 佐藤 信 氏）は、下記の史跡について新指定をするよう、また登録有形文化財（建造物）について登録するよう文部科学大臣に答申しました。</p> <p>○ 山梨県内での史跡 1件（詳細は別紙1）</p> <p style="text-align: center;"><small>こうふじょうあと</small> 「甲府城跡」（甲府市丸の内一丁目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲府市の中心部に所在する近世の平山城跡。<small>ひらやまじろあと</small> ・豊臣政権下、甲斐一国を治め、関東の徳川氏に対する抑えとして築かれた城跡であり、江戸時代には甲府藩（徳川氏・柳沢氏）の居城等となった。 ・築城期の野面積み石垣が天守台を中心に良好に遺存しており、東日本における初期段階の織豊系城郭<small>しよくほうけいじょうかく</small>として貴重である。 <p>○山梨県内での登録有形文化財（建造物）は次の2件（詳細は別紙2・3）</p> <p style="text-align: center;"><small>おざわけじゅうたくしゅおく</small> <small>おざわけじゅうたくぶんこくら</small> 「小沢家住宅主屋」、「小沢家住宅文庫蔵」 (甲州市勝沼町)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・旧甲州街道沿にある養蚕農家。 ・前庭に南面して建つ主屋は入母屋造りの総二階建てで、棟中央に越屋根<small>こしやね</small>を設け、二階を全て蚕室にあてるなど、養蚕で栄えた近代山梨の農家主屋の形式を伝える。 ・主屋背面に土蔵造り二階建ての文庫蔵が建ち、上層農家の伝統的な屋敷構えを形成している。 <p style="text-align: right;">〈問い合わせ先〉 教育庁学術文化財課 (史跡) 埋蔵文化財担当 電話 055-223-1791 (直) 県庁内線 8502</p> <p style="text-align: right;">(登録有形文化財(建造物)) 文化財保護担当 電話 055-223-1792 (直) 県庁内線 8515</p> <p>URL http://www.pref.yamanashi.jp/gakujutu/bunkazaihogo/houdou.html</p>	

【史跡】

(別紙1)

- 1 名称 甲府城跡こうふじょうあと
- 2 所在地 山梨県甲府市丸の内一丁目
- 3 指定面積 66,567.24 m²
- 3 所有者 山梨県ほか
- 4 史跡の概要

甲府城跡は、山梨県甲府市の中心部、一条小山（標高約300m）と呼ばれる独立丘陵に築かれた、近世の平山城跡である。天正18年（1590）、豊臣方の支配地となった甲斐は、関東の徳川氏への抑えとして重要視され、豊臣一門や有力武将が配置され、浅野長政・幸長親子によって本格的な甲府城造営が進められ、慶長5年（1600）頃までに完成したと考えられる。関ヶ原の戦いの後は幕府直轄となり、城番制の時期を経て、徳川綱重・綱豊（後の家宣）が藩主となった。その後、柳沢吉保が甲府藩主となり、大規模な城の改修が行われた。柳沢氏の移封後は再び幕府直轄地となり、甲府勤番支配が管理し幕末に至った。

城の縄張りは、丘陵頂部の本丸を中心として、その周囲に天守曲輪、稲荷曲輪、数寄屋曲輪、鍛冶曲輪といった曲輪を階層的に配置するもので、本丸の西側下に帯曲輪を挟んで二の丸と楽屋曲輪等を設け、これらの曲輪群を内堀が取り囲む。各曲輪の城壁は総石垣造りで、本丸・稲荷曲輪を中心に築城期の野面積み石垣が残存する。発掘調査によって、鉄門・銅門、煙硝蔵、地盤補強と思われる地中石垣、石切場遺構等を検出し、築城期と考えられる金箔の鯨瓦や鬼瓦を含む多数の遺物が出土した。また、城跡北東にある愛宕山の山裾部では築城に伴う石切場も見つかった。

東日本における初期段階の織豊系城郭として、我が国近世の政治・軍事の歴史を知る上で貴重である。



(写真1) 甲府城跡 鳥瞰写真（東から）



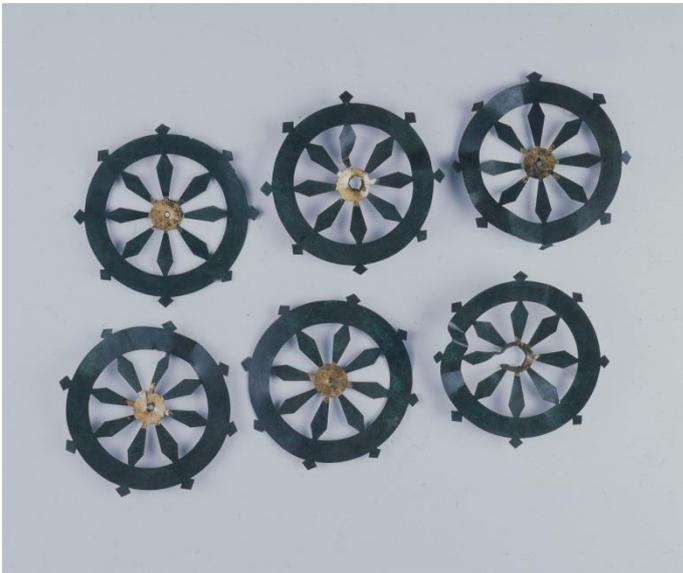
(写真2) 築城期の石垣が良好に残る天守台



(写真3) 築城期の野面積み石垣



(写真4) 地下式えんしょうくらの煙硝蔵跡



(写真5) 稲荷いなり櫓台やぐらだいで発見された地鎮具



(写真6)
築城期の浅野氏家紋瓦

【登録有形文化財】

(別紙2)

- 1 種 別 建造物
- 2 名 称 おざわけじゅうたくしゅおく
小沢家住宅主屋
- 3 所在地 山梨県甲州市勝沼町等々力1372他
- 4 所有者 個人
- 5 建築年代 明治中期
- 6 登録基準 「(二)造形の規範となっているもの」
- 7 特徴等

旧甲州街道の通りに面して立地する建物で、かつて養蚕業を行っていた建物である。入母屋造り棧瓦葺き2階建て、棟中央に越屋根が付いている。1階の間取りは東側に土間、西側に座敷が6室が配置され、上手側に座敷2室が並んでいる。2階は以前は蚕室として使用されていた。養蚕で栄えた近代山梨の農家主屋の形式を伝える建物である。建物は、大正期には診療所として使用され、昭和61年からは飲食店「皆吉」として使用されている。



外観（南側）



外観（南西側）



店舗入り口



内観 (オクザシキ)

【登録有形文化財】

(別紙3)

- 1 種別 建造物
- 2 名称 小沢家住宅文庫蔵
おざわけじゅうたくぶんくら
- 3 所在地 山梨県甲州市勝沼町等々力1372他
- 4 所有者 個人
- 5 建築年代 明治前期
- 6 登録基準 「(一) 国土の歴史的景観に寄与しているもの」
- 7 特徴等

主屋の背面西側に建っている建物である。土蔵づくり2階建て、切妻造り棧瓦葺きで、正面中央に扉口が設けられている。外観は漆喰塗で、主屋と接続し、上層農家の伝統的な屋敷構えを形成している。



外観（北側）



内観（2階）